



十二番歌合



昭和五十三年十二月廿八日 飯島書店より 估価千円

村井 順



哥合のしつじふあひのたの世のあまの  
あふのたふのたのたのたのたのたの  
あふのたふのたのたのたのたのたの  
あふのたふのたのたのたのたのたの  
あふのたふのたのたのたのたのたの  
あふのたふのたのたのたのたのたの  
あふのたふのたのたのたのたのたの  
あふのたふのたのたのたのたのたの  
あふのたふのたのたのたのたのたの  
あふのたふのたのたのたのたのたの  
あふのたふのたのたのたのたのたの



魚をせしむるはたしむるのさかきあひのむす  
 とすむるむすむすむすむすむすむすむすむす  
 らむすむすむすむすむすむすむすむすむす  
 らむすむすむすむすむすむすむすむすむす  
 は一箇よりむすむすむすむすむすむすむす  
 今こころむすむすむすむすむすむすむすむす  
 ちむすむすむすむすむすむすむすむすむす  
 残源高の大人その大人をむすむすむすむす  
 とむすむすむすむすむすむすむすむすむす

十二番歌合

寛保元年八月  
於荷田在満家

題

故郷萩

寄月恋

作者

左方

源信恭

源方江

紀恭忠

楓里

喜世

通泰

右方

辻子

茂子

菅子

在満

紀量

友古

判者

賀茂真例

一番

あつ癖

左勝

源信恭

あつ癖  
源信恭

右

討子

討子  
源信恭

二

あつ癖  
源信恭

一番

左持

源方に

あつ癖  
源方に

右

討子

討子  
源信恭

萩原ももつゝももつゝの梅のさかすかののぶたももつゝ  
世もももつゝももつゝの梅はるあつゝももつゝのぶたももつゝ  
そめげももつゝももつゝのたよひももつゝももつゝももつゝか  
―物海ふぶつのももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝ  
ももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝも  
あれももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝ  
かろつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝ  
ももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝ  
海原のぶつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝ

たつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝ  
ももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝ

二番

左勝

紀恭忠

たつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝ

右

昔子

あつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝ  
たつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝ  
たつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝ  
たつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝももつゝ

あはれなるものぞきこえしは  
もいふあはれなるものぞきこえしは  
—もいふあはれなるものぞきこえしは

四番

左

楓里

那もあはれ—里のあはれなるものぞきこえしは

右勝

荷田在満

あはれなるものぞきこえしは  
左にあはれなるものぞきこえしは  
もいふあはれなるものぞきこえしは

三

あはれなるものぞきこえしは  
あはれなるものぞきこえしは  
あはれなるものぞきこえしは  
あはれなるものぞきこえしは  
あはれなるものぞきこえしは  
あはれなるものぞきこえしは  
あはれなるものぞきこえしは  
あはれなるものぞきこえしは  
あはれなるものぞきこえしは  
あはれなるものぞきこえしは

五番

左持

喜世

あはれなるものぞきこえしは

右

泡量

に...の...  
た...  
よ...  
し...  
句...  
致...  
ふ...  
ふ...

左端

通泰

...の...

E

右

友古

あ...の...  
た...句...  
し...の...  
は...  
て...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...





にまはし保ちあめりあれど、情にあづからず。

八番

左

恭忠

よせがら保ちあめりあれの、恋むかへし、袖にまはし月影

右 情

在満

人まはし、こころをまはし、月影をまはし、袖にまはし、月影

たすの、まはし、たすの、袖に、まはし、たすの、まはし、たすの、

まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、

まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、

九番

左 勝

喜世

月影をまはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、

右

茂子

人まはし、こころをまはし、月影をまはし、袖にまはし、月影

たすの、まはし、たすの、袖に、まはし、たすの、まはし、たすの、

まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、

まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、

まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、

まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、

まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、まはし、

しつぽくちくちくあはれつねにたしとあはれただよもの  
もよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの  
てよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの  
もよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの  
てよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの  
もよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの

十番

右

信恭

たねへ入後かよつとあはれつねにたしとあはれただよもの  
もよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの

右勝

世良子

あはれつねにたしとあはれただよもの  
もよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの  
てよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの  
もよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの  
てよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの  
もよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの

十一番

右坊

楓里

あはれつねにたしとあはれただよもの  
もよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの  
てよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの  
もよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの  
てよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの  
もよもひもよもひなほりしとあはれつねにたしとあはれただよもの

右

針子

去りたる月を以て右の國の國に於ては左の國の國に於ては  
左の國の國に於ては右の國の國に於ては  
て思ひ入れたるもあはれは待たざるに過ぎぬ  
るにちかみたるに過ぎぬ  
たされ。

十二巻

左勝

通泰

秋はあはれ月を以て右の國の國に於ては左の國の國に於ては

右

地量

板も月を以て右の國の國に於ては左の國の國に於ては

右の國の國に於ては左の國の國に於ては  
左の國の國に於ては右の國の國に於ては  
るもの國用なり。兼て向を登向よりんたる事  
ある所下の色を以て人の心を以てする事  
はさるるに過ぎぬに過ぎぬに過ぎぬ

たすに過ぎぬに過ぎぬに過ぎぬ  
るに過ぎぬに過ぎぬに過ぎぬ  
たすに過ぎぬに過ぎぬに過ぎぬ  
るに過ぎぬに過ぎぬに過ぎぬ

めりてはなほなほとけども松橋の秋落のしらぶ  
びんもあはれはつが菊の葉のまへにむらさきよなむらさきの  
いかにたのむらさきあはれはつが菊の葉のまへにむらさきの  
そよよのむらさきあはれはつが菊の葉のまへにむらさきの  
のうたのむらさきあはれはつが菊の葉のまへにむらさきの  
るのむらさきあはれはつが菊の葉のまへにむらさきの  
わさかしのむらさきあはれはつが菊の葉のまへにむらさきの  
あはれはつが菊の葉のまへにむらさきのあはれはつが菊の葉のまへにむらさきの  
めりてはなほなほとけども松橋の秋落のしらぶ

かえりのあはれ

九

附録

寶曆六年二月縣居翁家歌會兼題當坐歌

春のそよめれし

侍従貞隆

刀祢川の氷のそよめれし

き

真淵

たけのこはつが菊の葉のまへにむらさきのあはれはつが菊の葉のまへにむらさきの

い

橘枝直

Handwritten text in a cursive script, likely a name or title.

源秀衛

Handwritten text in a cursive script.

路子

Handwritten text in a cursive script.

梅子

Handwritten text in a cursive script.

別子

Handwritten text in a cursive script.

一

Handwritten text in a cursive script.

後子

大層の... (Vertical text)

紅子

Handwritten text in a cursive script.

白子

Handwritten text in a cursive script.

侍後貞隆

Handwritten text in a cursive script.

真淵

おん 源真淵の御歌

末のこころをいかにいかに

源貞松

おん 源貞松の御歌

こころをいかにいかに

橘小松

おん 橘小松の御歌

河津交松

おん 河津交松の御歌

おん 藤原秀信の御歌

藤原秀信

おん 藤原秀信の御歌

大宅公庸

おん 大宅公庸の御歌

おん 大宅公庸の御歌

橘常樹

おん 橘常樹の御歌

橘文剛

おん 橘文剛の御歌

4200

Handwritten musical notation on a five-line staff.

管子

Handwritten musical notation on a five-line staff.

管子

Handwritten musical notation on a five-line staff.

Handwritten musical notation on a five-line staff.

管子

Handwritten musical notation on a five-line staff.

管子

111

Handwritten musical notation on a five-line staff.

Handwritten musical notation on a five-line staff.

管子

Handwritten musical notation on a five-line staff.

Handwritten musical notation on a five-line staff.

管子

Handwritten musical notation on a five-line staff.

Handwritten musical notation on a five-line staff.

管子

Handwritten musical notation on a five-line staff.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

白馬

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

枝直

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

黄倉

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

探題

探題

白馬

枝直

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.

黄倉

Handwritten text in a cursive script, likely a list or record.



Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Small square stamp or mark.

寶曆二年六月廿二日村田春道葛飾別業集余當坐禪

之春霞

枝直

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

田原集

光樹

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

柳南

公南

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

溪石居

常樹

秋あつぐぢぬみの溪石居のまよきびに  
この句あつぐぢぬみいしきびにたり

松上露

枝虫

なみ松の枝より枝よき露を染み世とて  
万葉よなみ木といひ人の名は並松をあれど  
つらねたあつぐぢぬみいしきびにあり

路卯屯

維寧

わらわなみももつちのふのちみよの  
卯のふもつち

聞歌と

老樹

あつぐぢぬみの溪石居のまよきびに

あつぐぢぬみいしきびに

あつぐぢ

秀倉

あつぐぢぬみの溪石居のまよきびに  
あつぐぢぬみいしきびに

夏草流

公庸

あつぐぢぬみの溪石居のまよきびに  
あつぐぢぬみいしきびに

あつぐぢ

あつぐぢ

あつぐぢぬみの溪石居のまよきびに

暖酒涼

常樹

あつしよひかたうらやまの酒はあつしよひの酒に似たり

結句はあつしよひ

ふし月

枝直

あつしよひの酒はあつしよひの酒に似たり

風告牌

春道

あつしよひの酒はあつしよひの酒に似たり

この句はあつしよひ

秋夕露

枝直

あつしよひの酒はあつしよひの酒に似たり

あつしよひの酒はあつしよひの酒に似たり

暮錦書

老樹

あつしよひの酒はあつしよひの酒に似たり

あつしよひの酒はあつしよひの酒に似たり

河島露

常樹

あつしよひの酒はあつしよひの酒に似たり

あつしよひ

炭紅葉

公庸

あつしよひの酒はあつしよひの酒に似たり

あつしよひの酒はあつしよひの酒に似たり

湊子鳥

みまのこはなはなみまのこはなはなみまのこはなはなみまのこはなはな

↑

細代水

秀金

はなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはな

此下句

雲村句

公庸

はなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはな

5二の句用

倉上雪

千蔭

わののののののののののののののののののののののののののののの

山

常盤松

丸樹

はなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはな

日向

日見松

枝直

はなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはな

後句

思逢松

常松

はなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはなはな

向ふとまじりてついでにふりてふるをまじりて

借分恋

子花恋

あふるよふにむらさきとさかきとくさのついでにむらさきと

法句抄

根元恋

火樹

いづれもあはれむらさきとさかきとくさのついでにむらさきと

傳阿恋

春道

みよしのむらさきとさかきとくさのついでにむらさきと

あふるよふにむらさきとさかきとくさのついでにむらさきと

さくら恋

舞会

あふるよふにむらさきとさかきとくさのついでにむらさきと

田のうきいしのついでに後めくさのついでに

稀問恋

春乃

むらさきとさかきとくさのついでにむらさきと

夜更恋

枝直

あふるよふにむらさきとさかきとくさのついでにむらさきと

後まふるよふにむらさきとさかきとくさのついでにむらさきと

山家烟

枝直

むらさきとさかきとくさのついでにむらさきと

むらさきとさかきとくさのついでにむらさきと

のちかきもの

田かきもの

考樹

したまひもつ—のちかきもの—のちかきもの—のちかきもの—のちかきもの

田かきもの

田かきもの

考樹

したまひもつ—のちかきもの—のちかきもの—のちかきもの—のちかきもの

田かきもの

考樹

したまひもつ—のちかきもの—のちかきもの—のちかきもの—のちかきもの

+

此あははらひのちかきもの—のちかきもの—のちかきもの—のちかきもの

あははらひのちかきもの—のちかきもの—のちかきもの—のちかきもの

あははらひのちかきもの—のちかきもの—のちかきもの—のちかきもの

あははらひのちかきもの—のちかきもの—のちかきもの—のちかきもの

あははらひのちかきもの—のちかきもの—のちかきもの—のちかきもの

寛政元年子月

お田かきもの

江戸本石町十軒店萬笈堂英平吉和書目録

月浦修纂集

安藤重保神皇正統記 陸奥平青海大人書 全四冊  
清水源太入持 陸奥平青海大人書

はるかにあるべきもの様子をいふのうたれもさへうらやま  
いふた事りり一程のうらやまに於ておぼへ入たれんが事し人  
とらふと入たるた及ねむ行むかきぬの事し此集のうらやま  
せりともか時代の考とてさへうらやまの歌とて世の世の  
考とてさへ又世とて世の考とてさへうらやまの歌とて世の  
考とてさへ初めのうらやまの考とてさへ

古今ノ選

本居翁撰 村田兵衛大人 同校 小寺無清撰  
本居太夫大人 同校 摺巻中本一冊

是をてはれを大人とていふのたれよはて集の中よの選とて  
れたる事とてさへありあはれいふとてさへうらやまの歌とて  
ふせよとてさへありあはれいふとてさへうらやまの歌とて

庚子道能記

白柏子成徳撰 陸奥平青海大人書 全一冊  
橋本彦平太夫大人書

此等の礼を事保の次自極子武事としてその尾流より見られたる  
をみれば礼也前文の如くはまこと和睦の事より見られたる才流の  
古くよたらしいことばをききまこといふはまこと和睦の事より見  
たかた流梅をばまいらつふ世流一考と名をききまこと

百人一首新抄

石原西の大人流

全一冊

世に百人一首の流あまたあれはまこといふはまこといふ所の見あり  
て先一首に百人一首のあひたふ流とまこといふの事よりその大を  
流とて梅をばまいらつふ世流一考と名をききまこと

諸國名義考

藤原彦成大人著

川島南書屋大人校

全二冊

此書は法蘭西の地名と和名抄といふの古きふしより考たてて  
の各義を人よりとりしむるにむかひて古く未だの考とあり  
とれたるなり

尚古解

依才抄本

全一冊



